

まえがき

農林水産政策研究所では、平成 28 年度よりプロジェクト研究「都市住民等による農業・農村の価値・魅力の発揮を支える多様な取組に関する研究」（平成 28 年度～平成 30 年度）を実施し、都市住民等が求める農業・農村の価値・魅力とは何か、またその価値・魅力を最大限活用し、地域活性化への効果的な方策を明らかにするための研究分析を行ってきた。このプロジェクトでは大きく三つの課題に取り組んでおり、一つは若年世代の農村への移住に関する課題、二つ目が農村に人を呼び込む取組に関する研究課題、そしてもう一つは地域に賦存する資源を持続的に活用するための研究課題である。本プロジェクト研究資料は、このうち三つ目の課題について、いかに持続的な地域資源の活用システムを構築するか、また地域資源を活用していかに循環型社会を実現するのかについて分析・検討した成果をとりまとめたものである。

周知のとおり、農村地域には森林資源、農産資源等、さまざまな資源が賦存している。また、これらの資源は都市住民にとっても重要な資源である。これらの資源をいかに持続的に利用し、循環型社会の形成に結びつけられるのかは、農村地域のみならず都市地域の経済活動・社会生活に大きな影響を与える。

本プロジェクト研究資料では、農村地域の地域資源のうちバイオエネルギーに焦点を絞った上で、まず第 1 章では、既存研究における地域資源の定義を踏まえ、バイオエネルギーを地域資源として定義し、第 2 章で我が国におけるバイオガスの普及状況について概説する。続いて、第 3 章、第 4 章では北海道士幌町におけるバイオガスプラントを事例に、メンタルモデル分析を用いて得た情報から、バイオガス普及の阻害要因を明らかにした研究成果及び社会心理学の心理的距離の概念を用いた分析の成果を紹介する。そして、第 5 章では農林水産政策研究所が国際再生可能エネルギー機関（IRENA）及び国際農林業研究センター（JIRCAS）と共同で行った研究プロジェクトの中で、ナイジェリアでのバイオエネルギーの持続可能性指標の評価にステークホルダーの意見を反映させる手法の開発研究について紹介する。最後に、第 6 章でこれまでの分析で得られた結論を述べる。

本資料が農村地域における地域資源の有効利用のための基礎資料として幅広い分野で活用されることを願っている。なお、本資料の内容は、平成 25 年度から 28 年度まで実施していた「農業・農村の新たな機能・価値に関する研究」において刊行したプロジェクト研究資料「農村における地域資源の活用とその効果ーバイオマスのエネルギー利用を中心としてー⁽¹⁾」（平成 28 年 8 月刊行）とも密接に関連している。こちらについても、本資料と併せてご覧いただければ幸いである。

平成 31 年 3 月

農林水産政策研究所
都市住民プロジェクトチーム

注. <http://www.maff.go.jp/primaff/kanko/project/28arakachi3.html> 参照。